

令和 6 年 9 月 11 日

浜田市議会議長 様

議員名 三浦 大紀

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1. 視察先
 邑南町役場
2. 視察事項
 邑南町地区別戦略事業「ちくせん」への IT (kintone) の活用方法、導入に至った経緯等について
3. 視察の目的（市政との関連など）
 自治体DXの推進をはかる提言や、一般質問へ反映させること。
4. 期間（移動日を含む）
 令和 6 年 8 月 28 日（水）
5. 経費
 969 円 （経費内訳 資料代 0 円、 旅費 969 円）
 高速料金 浜田インター～大朝 1,360 円
 瑞穂～浜田インター 1,040 円
 ガソリン代 1,479 円
 合計 3,879 円を 4 名で案分 969 円/1 名
6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など
 - ① DX化による業務量の削減と省力化
 - ② 戦略を持ったまちづくりの実践事例
 - ③ ネットワーク構築の仕組みづくり
7. 視察内容
 （詳細は別紙のとおり）



【視察概要】

(地域コミュニティ戦略)

- ・旧石見町：当初は100世帯程度を単位に自治体を形成→人口減少で再編中
- ・集落→自治会→公民館
- ・自治会補助金を出しているが地域間で大きな差（出羽：307世帯・日貫：17世帯）
- ・全町で戦略を進めるために「人口の1を取り戻すシミュレーション」を各自地区に提示（自分ごとにできる状態に）
- ・その結果、全ての地区が地区別戦略を策定した。
- ・戦略（補助金）の条件：人口減少に歯止めをかける、住民主体、地域の総意
- ・都市交流推進拠点整備事業コンペを実施（2件/年）
- ・提案書を出した時点で審査員から質問があるので、それを踏まえてプレゼンに臨んでいる。
- ・集落支援員制度を使った人件費負担と事業補助（段階的に減額して将来的には自走）を行う。
- ・委託して事業をサポート（持続可能な地域社会総合研究所、小さな拠点ネットワーク研究所）：スタッフがかわらないため、地域事情の把握もできる。
- ・今後はRMO（地域運営組織）へ移行。
- ・公民館には正規職員が配置されている。

(Kintoneの実践)

- ・会計事務の負担軽減。
- ・以前は年度末に全てをチェックしていたが、導入後は入力都度チェックができるようになった。
- ・地域と行政、地域間などで情報のやりとりができるスレッド機能を活用。
- ・RMOが本格的に動く前に、導入しておく必要があると考えている。（各集落への補助金は今も紙ベースの報告）

Q. コンペの申請主体は？

A. 地区ごと。

Q. Kintoneの利用者は？

A. 集落は入っていない。

Q. 導入のきっかけは？

A. 交付金活用時。

Q. システム構築は？

A. 担当者とサーボス提供者が構築。

Q. RMOへの切り替えはどのように？

A. 地域コミュニティのあり方検討会を立ち上げ今後の姿を検討し町に対する提言をしてもらった。活動拠点は公民館へ切り替えていくということになった。

Q. 都市交流推進拠点整備事業コンペの事業予算と賞金額？

A. 賞金500万円×2件。直営（審査員は費用弁償のみ）。

Q. 地区別戦略事業の委託費用は？

A. 1,100万円程度。

Q. 常勤の方の人件費の財源は？

A. 集落支援員制度を活用。

Q. Kintoneの活用の展開は？庁内での活用実績は？庁内での案件管理などもこれでやれ

ば良いのでは？

A. 空き家事業の情報管理にも活用。アイデアレベルだが、財政担当課から決算情報を各課が入力できたらなどの要望はある。

Q. 島根県のユーザーが入っているのはなぜ？

A. 県のエリア担当者。

Q. 労力はどれほど軽減されたか？

A. 導入後、専任はいない。日中の問い合わせや文書の発送などもなくなった。

以上



(所感)

DX の効果を学ぶ良い研修であった。まちづくり組織へのシステム導入によって、行政業務の効率化による効果が人件費の削減はもちろんのこと、地域活動の推進にもつながっている。地域活動のステータスの把握、情報共有のスムーズ化、コミュニケーションの見える化（チャットツール）など、成果は多岐に及んでいた。

業務アプリをノーコードでつくれるという点も大変魅力的だ。コスト面については、各セクションの部分最適では、費用対効果も大きく出せないことから、全体でどのように DX を図るかのロードマップ策定が浜田市ではまず必要と考える。そのためにも、DX 推進室（仮）のように事業を牽引する組織が必要だ。

今後、浜田市内（和田地区）で始まる導入実績を伺うとともに、他自治体での導入事例も引き続き研究しながら、人手不足や業務の複雑化といった課題に対する解決策を考えていきたい。